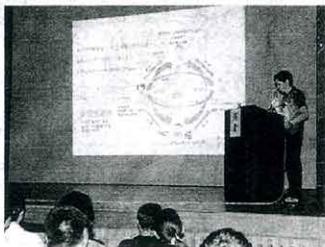


在宅医療 協力が要

四日市 看護師らが実例報告

在宅医療を考える勉強会が七日、四日市市下之宮町のあさけプラザであった。実際に在宅医療を考えた勉強会に、四日市市や看護師らによる症例報告などがあり、医療関係者や市民約二百人が聞き入った。



在宅医療を考えた勉強会。四日市市下之宮町のあさけプラザで

が聞き入った。症例報告では、自宅で最期を迎えたいと強く希望する末期がんの高齢女性の在宅医療に当たった医院や介護施設の医師、看護師、社会福祉士、訪問介護員らが登壇。当時の様子や課題を発表した。

看護師は「ケアする側もいつ容体が急変するかと不安になった」と話し「医師やヘルパーさんとの協力態勢を整えることが重要」と指摘。介護支援専門員は「患者の情報を共有する『連絡ノート』が役に立った」と振り返った。また、全身の筋肉が徐々に動かなくなる難病の症例も紹介された。

勉強会は同市山城町の「いしが在宅ケアクリニック」がより良い在宅医療の実現を目指して企画。二年ぶり六回目。「こつした勉強会」は少なく、今後も開

いていきたい」と話している。(河崎裕介)